

研究報告

九州歯科大学歯学部学生の講義および実習の達成度および満足度に関するアンケート調査

豊野 孝^{1,7)} 高田 豊^{2,7)} 荒井秋晴^{3,7)}
稲永清敏^{4,7)} 後藤哲哉^{5,7)} 西原達次^{6,7)}

抄録 これまでに九州歯科大学歯学部学生を対象とした、学年ごとの履修した全講義および実習に対する達成度および満足度の調査は行われていない。そこで、本研究では本学歯学部学生(2~6年生)全員489名を対象として、マークシート方式によるアンケート調査を行った。

1~5年次講義および実習の達成度および満足度に関して、学年ごとに比較を行った。その結果、5年次講義の達成度および満足度が他の学年に比べ低いことが明らかになった。1~5年次実習の満足度に関しては、1年次実習が他の学年に比べ満足群が低く不満足群が高い傾向が認められた。各学年の講義および実習での達成度および満足度が高い科目を調べたところ、2年次では基礎科目が、3年次では臨床科目が上位を占めていた。これらの科目において達成度および満足度間には有意の正の関係が認められた。教養、基礎および臨床科目間の講義および実習の達成度および満足度の比較を行った。その結果、講義の達成度および満足度においては、基礎科目が最も低く教養科目および臨床科目間では差は認められなかった。

これらの結果より、講義や実習において学年間および科目間において達成度および満足度の差が認められた。今後は本結果をもとにして講義および実習内容および方法の改善に取り組む必要があると考えられた。

キーワード 講義, 実習, 達成度, 満足度, 学生

結 言

大学における歯科教育の教育成果を向上させるためには、教育実態の把握と教育成果の検証が不可欠である。九州歯科大学ではそのために、学習環境の満足度調査や、大学院生の教育・研究に関する意識および実態調査などを行ってきた¹⁾。教育成果の検証には学生による授業評価の解析が必要であり、本学においては歯学部学生による各科目の授業評価を行ってきた。しかしながら、この授業評価は各科目の授業に対する評価を行うのみであり、各学年の全受講科目の講義に対する、達成度および

満足度などの評価は行われてこなかった。さらに講義の評価のみが行われ、実習は対象とされていなかった。これまで授業評価に関しては各種の報告がなされているが²⁻⁴⁾、各学年の全受講科目の講義および実習に関する報告は行われていない。そこで、本研究では本学での教育成果の検証を目的として、歯学部学生を対象とした全受講科目の講義および実習の満足度および達成度のアンケート調査を行った。

対象および方法

本学歯学部2年生(97名)、3年生(95名)、4年生(91名)、5年生(96名)、6年生(110名)を対象にマークシート形式による、無記名のアンケート調査を行った。アンケートの回収率は2年生89.7%、3年生82.1%、4年生86.8%、5年生84.4%、6年生79.1%で、全体では84.3%であった。各学年ともに、1学年前の履修科目について調査を行った。調査は1年次(講義15科目、実習8科目)、2年次(講義19科目、実習12科目)、3年次(講義14科目、実習13科目)、4年次(講義15科目、実習10科目)、

¹⁾九州歯科大学生命科学講座口腔組織機能解析学分野

²⁾九州歯科大学健康増進学講座総合内科学分野

³⁾九州歯科大学医療人間形成学講座総合教育学分野

⁴⁾九州歯科大学生命科学講座生理学分野

⁵⁾九州歯科大学生命科学講座頭頸部構造解析学分野

⁶⁾九州歯科大学健康増進学講座感染分子生物学分野

⁷⁾九州歯科大学自己評価部会

平成19年8月28日受付

平成19年9月25日受理